

福井県知事の意見

本事業に係る環境影響評価方法書に対する環境の保全の見地からの意見については、次のとおりです。

(仮称)福井金毘羅風力発電に係る事業実施区域周辺は、希少猛禽類であるクマタカの生息が確認されるなど自然環境が豊かな地域であるとともに、環境省が設置する織田山鳥類観測一級ステーションでは、サシバといった渡りを行う希少猛禽類をはじめ小型鳥類からコウノトリを含む大型鳥類まで多様な鳥類の大規模な移動が見られており、全国的に重要な渡りの経路となっていると考えられる地域でもある。

また、学校や多数の集落が分布する中山間地の静穏な地域である。

一方、風力発電事業の実施に伴う、騒音、バードストライクおよび景観への影響については、全国的に課題として報告されているところである。

さらに、事業実施区域には砂防指定地が存在し、土砂流出に対しせい弱であると推定されること、近年、気候変動によるゲリラ豪雨や集中豪雨が全国的に発生していることから、森林の伐採や地形改変による多量の濁水の発生や土砂流出が懸念される。

このような地域特性および事業特性を踏まえ、騒音等、水の濁り、動植物(特に鳥類)および景観への影響について、十分考慮する必要がある。

このため、方法書に記載されている事項に加え、以下の事項に十分配慮し、環境影響評価を適切に行うことが重要であり、その評価結果から重大な環境影響が回避または十分に低減できないと考えられる場合には、風力発電設備配置等の再検討、事業実施区域の見直しおよび風力発電機の基数削減を含む事業計画の見直しが必要である。

1. 環境影響評価の項目について

工事の実施による影響要因として、切土工事により発生した残土を対象事業実施区域内に埋め立てや撒きだしを行う場合には、その影響について検討し、必要に応じて撒きだし等作業および埋立地や撒きだし地の存在を影響要因として抽出し、環境影響評価を実施すること。また、工事中の建設機械の稼働に伴う動物への影響についても対象項目とするよう検討すること。

2. 環境影響評価の調査、予測および評価の手法について

(1) 建設機械の稼働による窒素酸化物および粉じん等に係る風況の調査地点については、地形の影響を考慮し、風力発電機を設置する尾根で把握すること。

(2) 窒素酸化物の評価については「大気汚染に係る環境基準」との整合性が図られているかどうかを評価することとしているが、現地調査の調査期間は通年ではないことから、調査結果の代表性の検討を行った上で予測・評価を行うこと。

なお、その検討結果を準備書に記載すること。

(3) 施設の稼働による騒音および低周波音の調査、予測および評価に当たっては、住居等における残留騒音等の現況を的確に把握できる調査地点・時期等を選定するとともに、既存風力発電事業における事後調査結果等の最新の知見を収集し、複雑な地形や気象等を考慮した

適切な予測手法および低周波音の評価比較値の追加設定を含む評価方法の選定を行うこと。

また、予測結果については、予測地点以外の住居等における影響についても、住民等が十分に理解できるよう、準備書の記載に配慮すること。

(4) 水の濁りについては、土砂流出に係るぜい弱性を踏まえた取付道路等を含む施設の配置や構造および土砂流出防止措置などの事業計画を考慮し、必要に応じ地形改変および施設の存在を影響要因に加えること。

また、事業実施区域周辺の河川水等は、漁業利用や水道用水の取水が行われ、殿下地区では水辺に生息するカジカガエルが地域のシンボルとされている。このことから、水の濁りに係る調査地点等の選定に当たっては、これらの利水や水生生物等への影響および具体的な事業計画を考慮するとともに、降雨時の水質を適切に把握するため、調査頻度や測定回数を増やすこと。

予測に当たっては、地形地質・利水等の地域特性および具体的な事業計画を踏まえた予測条件および予測地点の選定を行うこと。

(5) 動物(鳥類およびコウモリ)に係る調査方法の詳細および影響の評価に当たっては、鳥類等の生態や現地の状況に精通した専門家その他の環境影響に関する知見を有する者(以下「専門家等」という。)の意見を聴取し、その意見を反映すること。

希少猛禽類および渡り鳥に係る調査について、次の事項に特に留意すること。

① 希少猛禽類

予備的に生息状況の調査を実施するとともに、その途中経過や結果について専門家等の意見を聴取し、必要に応じて定点観察調査の地点等を修正すること。

なお、調査期間中に繁殖が確認されなかった場合は、専門家等の意見を聴取し、必要に応じて調査期間を延長すること。

予測および評価に当たっては、行動圏および生活史を含む生態を把握したうえで、行うこと。

② 渡り鳥

猛禽類、ガン・カモ・ハクチョウ類、小鳥類の各種の渡りのピークとなる時期を十分に含む期間に、夜間も含めてレーダー調査を実施し、風車の羽の回転範囲内外を通過する鳥類の実態を把握すること。

また、降雨や風向・風速等の気象条件によって、渡りルートが変わることから、それら複数の条件を含むように調査日を設定すること。

定点観察調査については、調査員の能力が調査精度を大きく左右するため、調査地点の半数以上の地点で、熟達調査員を2名配置する調査体制とすること。

また、これらの調査の詳細結果を準備書に記載し、バードストライク等について累積的な影響も含めて評価し、その回避または低減の方法を具体的に示すこと。

(6) 動物、植物および生態系について、準備書に調査の実施日時、調査方法、確認された全種のリストを記載し、環境省および福井県のレッドリストに記載された種および自然植生につい

て影響評価を行い、回避または低減の方法を具体的に示すこと。

特に、小型哺乳類のニホンヤマネおよびニホンモモンガについては、専門家等の意見を聴取し、風力発電設備とその周辺の尾根部および取付道路等の付帯設備場所を中心に巣箱を設置すること。また、巣箱の利用状況から生息状況を把握し、影響評価を行うこと。

(7) 植生の調査については、早春または春の現地調査を追加するとともに、尾根以外の斜面での調査を追加すること。また、調査方法の詳細について、専門家等の意見を聴取し、その意見を反映すること。さらに、シカの生息密度調査の結果を踏まえ、重要な植生や希少植物が生育する場所では、シカが増える可能性のある森林伐採を最大限回避すること。

また、自然環境を改変する場所については、外来植物の侵入状況の把握およびその対策の方法について、準備書に記載すること。

(8) 景観について、天王川(江波地区)、五太子の滝、足見滝、武周ヶ池、越前岬、鬼の洗濯場、呼鳥門、越廼海水浴場およびガラガラ山越前水仙の里キャンプ場を追加すること。

眺望の確認を行う際は、季節、時間を変えたフォトモンタージュ法を行うこと。その際、風力発電機に加え、施工による森林伐採や取付道路の設置についても考慮するとともに、撮影ポイントを広角的にとらえた写真による評価を行うこと。

その評価に当たっては、「国立・国定公園内における風力発電施設の審査に関する技術的ガイドライン」(環境省・平成 25 年)を参照すること。

3. 環境影響評価準備書の作成について

(1) 本事業における風力発電機の位置、出力、基数等および工事内容等の事業計画を明らかにした上で、調査、予測、評価結果を記載すること。

(2) 調査および予測の地点および時期等については、その選定の妥当性が確認できるよう、予測の前提条件を明記するなど、より具体的に選定理由を記載すること。

(3) 現地調査結果の記載に当たっては、調査の手法とその結果が関連できるように整理すること。

なお、希少野生動植物種の生息または生育状況の記載に当たっては、営巣地を明らかにしないなど、保護の観点に十分配慮すること。

(4) 環境保全措置の検討に当たっては、環境への影響の回避または低減を優先して検討し、代償措置を優先的に検討することがないようにすること。

また、環境保全措置についての複数案の比較検討、実行可能なより良い技術が取り入れられているかどうかの検討等を通じて、講じようとする環境保全措置の妥当性を検証し、これらの検討の経過を明らかにできるよう整理すること。

(5) 準備書は専門的な内容が多く、また、膨大な図書になる可能性があることから、作成に当たっては、図表や平易な用語を用いることなどにより、できる限りわかりやすい内容となるよう配慮すること。